

2020年8月12日

2020年7月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は全体としては低調に推移、学参テキスト関連、封筒関連の一部に動きが若干見られたものの、全体を押し上げるには至らず前年を大幅に下回った。

巻取は生保の一部に動きがあったものの、定期品・小ロット物件の仕事しか見当たらず、コロナの影響から脱却は程遠く、前月に引き続き前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 79.4% 巻取 64.7%）

再生紙は平判、巻取共に入札物件の減少、再生紙離れ、在庫不足も加わり前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 67.2% 再生上質巻取 83.5% 再生上質計 71.6%）

（前年比 印刷用紙 A 76.4%）

<A2 コート>

自動車、不動産、官公庁関連等で保留となっていたカタログ、パンフレット、チラシ案件等で一部動きがあったが、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており各種イベントの中止、延期等で印刷物案件全般の需要が大きく減少し、平判、巻取とも前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 74.1% 巻取 77.8% 全体 74.7%）

<A3 コート>

株主総会、生損保関連等で動きがあった。また、スーパー、小売店、量販店、百貨店、学習塾等定期案件のチラシ等で一部回復の動きがあったものの、継続的な紙離れと新型コロナウイルスの影響（対策含む）が大きく前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 71.2% 巻取 70.0% 全体 70.5%）

<ノーカーボン紙>

新型コロナウイルスの影響を受け、生損保、金融関連の動きも非常に弱く、前年の増税前の特需の影響もあり、平判、巻取共に前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 76.7% 巻取 60.3%）

<上質フォーム>

新型コロナウイルスによるプレミアム商品券の需要が一部見られたものの、金融、官庁関連の納付書はじめ一般の動きも非常に弱く、前年の増税前の駆け込みの影響も受け、前年を大幅に下回った。

（前年比 74.3%）

<包装用紙>

特殊両更は官公庁関連の封筒が引き続き好調で前年を上回った。

(前年比 116.6%)

軽包装は製本会社向け雑包装用途の落ち込みと生花店向けの包装用途の落ち込みが回復せず前年を大きく下回った。

(前年比 73.2%)

片艶晒は百貨店やモール向け、またアパレル関係の手提げ袋が多少は戻ってきているが回復とまではいかず、前年を下回った。

(前年比 94.4%)

両更晒は一般企業向けの封筒、お土産用手提げ袋の需要の落ち込みが下げ止まらず前年を大きく下回った。

(前年比 79.1%)

色クラフトはリモートワークの浸透で事務用封筒、請求書用封筒の需要が大きく減り、前年を大きく下回った。

(前年比 72.5%)

純白ロールは上質紙など他銘柄への変更や省包装化の影響による落ち込みもあり、前年を大きく下回った。

(78.5%)

包装紙合計でも 78.0%と前年を大きく下回った。

<板紙>

依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、白板紙、コートボールは低調であるが、POP など一部特板紙は動きが見られた。但し、未だ行楽地などへの旅行自粛傾向が続き、土産物関係は依然として低調であり全体的には前年を下回った。

(前年比 90.8%)